

新型コロナウイルス等病原体ゲノム・モニタリングシステムの開発と全国自治体間の情報共有システムの開発

研究分担者 黒田 誠

国立感染症研究所・病原体ゲノム解析研究センター・センター長

研究要旨

全国レベルの包括的で円滑な公衆衛生対策に貢献するため、病原体ゲノムサーベイランスの体制整備に不可欠な情報を収集した。新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランスで確立した基盤を活用し、次年度以降、各種病原体の特徴に即した SOP 作成やプラットフォーム構築を実施予定である。

A. 研究目的

主要呼吸器ウイルス（SARS-CoV-2, インフルエンザウイルス, RS ウイルス）等の病原体ゲノムサーベイランスを構築し、全国レベルの包括的で円滑な公衆衛生対策に資する体制整備を目的とする。

B. 研究方法

国立感染症研究所・病原体ゲノム解析研究センターで構築した SARS-CoV-2 Genome Surveillance JAPAN の既存プラットフォームを有効利用し、地方衛生研究所が利活用しやすいよう、病原体ごとに特化した SOP 作成や各種病原体のゲノム情報解析サイトの充実を図っていく。

（倫理面への配慮）

新型コロナゲノム情報取得と解析において、「国立感染症研究所ヒトを対象とする医学研究倫理審査委員会」にて承認を得た（No 1178, 令和 2 年 9 月 3 日承認）

C. 研究結果

現在、SARS-CoV-2 ゲノム解読の標準作業手順書 SOP 作成および地方衛生研究所を対象に技術研修会を実施し（のべ 90 箇所、計 9 回）、

現場主体でゲノム情報取得が可能となっている。ゲノム情報が得られるまでの時間が短縮され、迅速な公衆衛生対策の構築に貢献できた。また、複数地域で作業負担を分配することで、全国レベルの包括的で円滑な病原体ゲノム・サーベイランスの基盤構築にもつながった。

全国的な SARS-CoV-2 ゲノムサーベイランスは確立したものの、インフルエンザウイルスや RS ウイルス等の主要呼吸器ウイルスへの拡張や充実も期待される。既存のプラットフォームを有効利用し、病原体ごとに特化した SOP 作成やゲノム情報解析サイトの充実を図っていく。

D. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

E. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし